

災害に備える

拡大版



東日本大震災から2年がたとうとしています。このページでは、今も市民や市によって続けられている支援活動と、災害時に必要な知識や技能が習得できる施設・講習を紹介。この機会に、災害について一度考えてみましょう。

甚大な被害をもたらした東日本大震災

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に大きな爪痕を残しました。地震の規模は日本の観測史上最大。札幌でも震度3を記録しました。

東日本大震災データ

- ・最大震度 7(宮城県栗原市など)
- ・マグニチュード(地震の規模) 9.0
- ・死者 15,880人 ・行方不明者 2,694人
- ・全半壊家屋数 397,918棟 ・札幌への避難者数 1,505人

※震度・マグニチュードは気象庁HPより。死者・行方不明者・全半壊家屋数は2月20日現在(警察庁資料。津波での被害含む)、札幌への避難者数は1月31日現在。

今なお続く、被災者支援活動

市民による被災者支援活動に関するお問い合わせは、市民活動促進担当 ☎211-2964

東日本大震災の影響により、震災前と生活環境が一変した方がたくさんいます。そうした方々に少しでも安心して暮らしてもらえるように、支援活動が続けられています。

市民による支援

支援活動の一部を紹介します

避難してきた子どもたちの学びや遊びを支援 みちのく kids



市内の大学生が中心となり、震災を機に札幌に移り住んだ子どもたちの勉強や遊び、仲間づくりのお手伝いをしています。

津波で失われた図書館を再建 北海道ブックシェアリング



全国から13,000冊以上の本や多くの支援金を集めるなど、岩手県陸前高田市での仮設図書館の開館に協力しました。

市による支援

被災者の健康相談や、道路・橋の整備などの支援を行うため、被災地に派遣した職員は延べ1,085人。寄付を募り、被災者支援団体に助成する活動も行っています。



医師・保健師による健康相談(写真は23年3月。仙台市の避難所)

3/11(月)~13(水)開催

被災地や支援活動を応援する催し



市民による被災者支援活動の紹介や、被災地の障がい者施設で作られた製品の販売を行います。募金も受け付けます。

会場 駅前通地下歩行空間

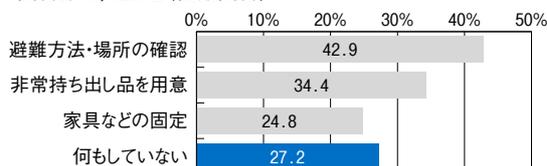
多くの市民が感じている防災の大切さ。しかし備えは不十分

昨年(2022年)の12月に行った市民へのアンケートでは、避難方法・場所を確認している市民が40%を超えていたものの、何も対策をしていない市民も25%以上いるという結果でした。防災の必要性を認識しながら、行動につなげられない市民が依然として多いことが分かります。

大切なのは、「意識」で終わらせず、「行動」に移すこと

[家庭で行っている災害への備え]

- ・調査期間 昨年12/3~28
- ・回答数 5,025通(複数回答)



3月11日(月)
リニューアルオープン

市民防災センターで

災害の知識やとるべき行動を身に付けよう!

消火に使う機材の展示や、災害の模擬体験を通して、防火・防災について学べる市民防災センターが生まれ変わってオープン。最新の技術を駆使した3つの展示が新たに登場します。

市民防災センターに関するお問い合わせは、防災協会 ☎861-1211

【施設案内】

住 所 白石区南郷通6北
開館時間 9時30分～
16時30分
休 館 日 年末年始
交通機関 地下鉄東西線「南郷7丁目」駅下車。
徒歩5分



入場
無料

3月11日(月)のみ開館時間が13時からになります

こんな体験ができる!

設備が
新しく

東日本大震災の揺れを体感し、とるべき行動を学べる

地震体験コーナー

リビングを模した部屋で、大地震の揺れを体験できます。実際に起こった地震を分析し、揺れ方や時間をできるだけ忠実に再現しています。



地震の種類が選べる

東日本大震災の揺れや高層ビル特有の長周期地震動、小さな子どもでも体験できる地震など8種類から選べます。

部屋全体が激しく揺れる

最大1mの幅で大きく揺れます。

光や音を再現

建物がきしむ音や、停電の中ショートする電気の光が臨場感を増します。

停電の中での地震を体験できるのは国内ではここだけ!

外の風景が見える

窓を模したスクリーンに、倒壊する家屋や火災の様子が映し出されます。

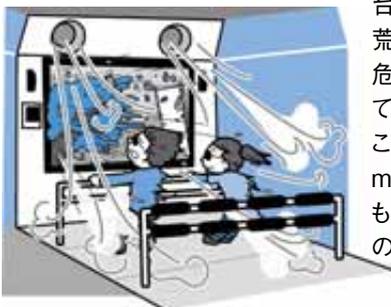
行動が確認できる

音声とモニターの指示に従って、地震時にとるべき行動を学べます。

新設
コーナー

風速30mの風を体感できる

暴風体験コーナー



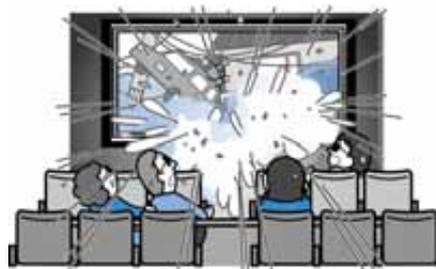
台風並みの暴風が吹き荒れる部屋の中で、その危険性や対処法について3D映像を通じて学ぶことができます。風速30mの風の中では、大人でも体が流され、呼吸するのもつらいほどです。

3D映像と風速30mの風が併せて体験できるのは、国内ではここだけ!

設備が
新しく

3D映像で災害の知識を深める

災害バーチャル体験コーナー



大型スクリーンで津波や水害などの危険性と対処法が分かる映像が見られます。実写を交えた3D映像と光や風の演出で、実際に災害現場にいるような体験ができます。

より現実に近づけた照明や音などの演出が加わり、災害現場の“怖さ”を感じてもらえる施設に生まれ変わりました。ここで災害への対処法を身に付け、いざというときに役立ててほしいです。

消防局職員
かわせしん
川瀬 信さん



万一の時に役立つ 技能を習得しよう

災害時はもちろん、いざというときに人命や地域を守る技能を覚えておくと、冷静に対応できる上、身近な人々を救う助けになります。

このページに関するお問い合わせは、救急課 ☎215-2070

命をつなぐ技能を身に付ける

応急手当講習

心肺蘇生法や止血法などを学ぶ講習です。実習では、実物大の人体を使ってAEDの使用法や胸骨圧迫、人工呼吸法を習得します。



4月から 応急手当講習が受講しやすくなります

短時間で受講できる
講習を新設しました

全て
受講料
無料

ウェブ WEB講習や普通救命Ⅲを新設

自宅のインターネットを使って学べる「WEB講習」のほか、主に乳幼児・子どもに対する応急手当の方法を学ぶ「普通救命Ⅲ」を新設。これまでの上級救命講習は廃止になります。

普通救命Ⅰの習得方法が多様に

「普通救命Ⅰ」はこれまで、3時間の講習を一度に受ける必要がありましたが、短時間の講習を組み合わせることで、修了できるようになります。

①②③のいずれかに加えて④を受講
→⑤「普通救命Ⅰ」を修了

4月から受けられる講習

講習の種類	会場	受講時間	内容
① 応急手当WEB講習 新 (防災協会HPから受講可)	自宅	1時間	インターネット上で 応急手当の知識を習得
② 救命導入講習 新	地域・学校	1時間	応急手当の初歩が学べる 短時間の講習
③ 救命入門コース 新	地域・学校	1.5時間	
④ 救命ステップアップ講習 新	市民防災センター！地域など	2時間	①②③の受講者向けの 実技講習
⑤ 普通救命Ⅰ	市民防災センター！地域など	3時間	応急手当の基本を学ぶ
⑥ 普通救命Ⅱ	市民防災センター！地域など	4時間	⑤ + 実技と学科の試験
⑦ 普通救命Ⅲ 新	市民防災センター！地域など	3時間	乳幼児や新生児への応急手当
⑧ 応急手当普及員養成	市民防災センター！地域など	3日間	普通救命講習の指導者を 養成する講習

易
↓
難

①は自宅ですべて受講できます。②～⑧は申し込みが必要です。開催日時や申込方法など、詳しくは防災協会 ☎861-1211へお問い合わせください。なお、3月中に申し込みができる講習については本誌26ページをご覧ください。

応急手当講習についての詳しい情報は
ホームページでも見ることができます

防災協会 応急手当講習

地域を守る防災組織

消防団

主に地域住民で構成された防災組織です。日頃から地域での防火・防災活動を行うほか、災害時の救助活動なども担います。特に若い方や女性の入団をお待ちしています。

対象 市内に居住か通勤・通学する18歳以上の方
問い合わせ 消防局職員課 ☎215-2020



中学校での救命講習(左)や、文化財を守る消防訓練(上)など、地域に密着した防災活動に従事します。

備えが必要と感じたらまず行動を

災害が発生したとき、適切な行動をとるためには、一人一人が日頃から準備しておく必要があります。

これまで紹介してきた施設や講習などを利用して
災害への理解を深め、あらためて備えを確認しておきましょう。